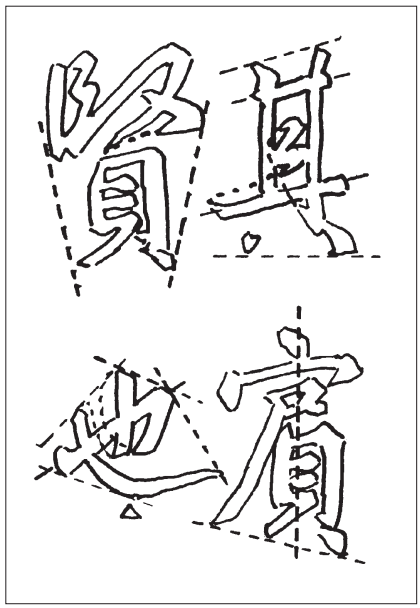
高橋香樹担当

臨　書　課　題

（十月二十二日締切）

◆半紙二行たて書きに臨書して下さい。出品料430円



興福寺断碑　王羲之

1、字句＝其賓賢也
2、形式＝半紙タテ使用。右に「其賓」、左に「賢也」と臨書し、左余白に落款「○○臨」と調和を工夫し書き入れる。
3、概観＝臨書に形臨、意臨があることは前に書きました。確かにそのような臨書の仕方があるのだとは思います。私は、臨書は形臨に徹すべしと考えていました。が、最近臨書は、原帖の筆遣い、呼吸を学ぶべきと思うようになりました。原帖の一点一画をよく観察すること。どの方向から入筆し、力が加わり、どのような呼吸で運筆され、収筆ではどんな動きで収めるか。これを入念に観察し再現する。この一連の動きを原帖と同じように行えば同じ点、線を表出できる。この点・線の集合体が文字の形となります。とかく、文字の形ばかりに目がゆき、一点一画の観察が疎かになっているのではないでしょうか。
4、各字のポイント

其　三画目は二画目より高い位置から入筆し、六画目の横画より下に大きく出し、四画目に意連。以後意連の連続。

賓　「ウ冠」一画目の点の位置に注意。六画目の左払い少し長めに。「貝」の末画の点右下がりに。

賢　上部の「臤」で幅を取る。これが安定した形にするコツです。「貝」は「賓」の「貝」と同じ動き、形。

也　一画目右肩を上げ転折後左へ払う。四画目は一画目の払いの角度に呼応するように左に傾斜。△で筆を突き右へ大きく払う。

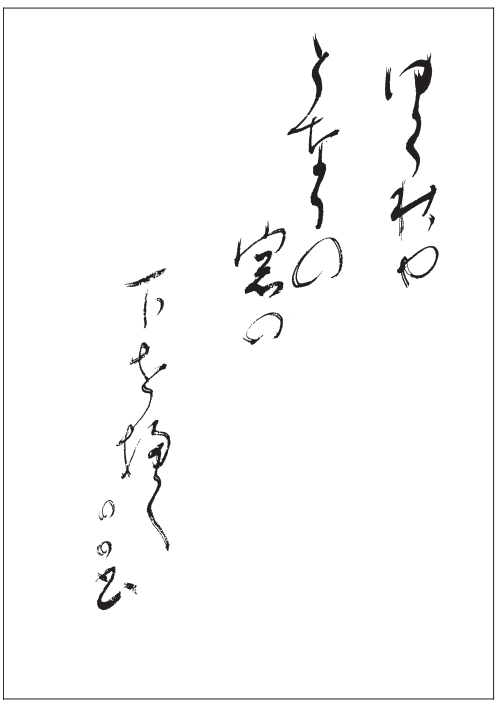
半　紙　課　題（予　告）

（十一月二十二日締切）

平岡華雪先生書　高寒半夜の霜（葉顒）

訳…夜半の霜はひどく寒い。

平岡華雪先生書　ゆく秋やとなりの窓の下を掃く（前田普羅）



第22回　全国書莚の集い

野田　麗夕

そろそろ梅雨明けかと思われる海の日に「第二十二回　全国書莚の集い」が開催されました。特に今回は、会長・鈴木先生による「永年の歩み　書莚の漢字かな交じり書」の講演ということもあり、一一六名もの参加者で、この日を心待ちにしておりました。

先ず、鈴木先生は、書莚会としての漢字かな交じり書の方針を定める必要性を説かれました。日常性、わかり易さ、読み易さが求められることによる、変体仮名・連綿・草体の許容範囲、又、漢字・かな共に根底にあるのは古典であり、蘭亭序・書譜を例に、鈴木先生自ら揮毫された映像に加え、動画を駆使しての説明は、リズム、流れ、呼吸等が感じられた、理解し易く、参加者は首を伸ばし見入っていました。

作品づくりに於いては、題材選びが大切な要素であり、「起承転結」の手法による表現法や落款の締め方については、書莚七月号、漢字かな交じり書の課題を例に、いくつかのパターンの表現法を示されました。書話としてのスタイルをとられ、鈴木先生より直接御指導を頂けたような満足感に溢れ、会場内は外の暑さ以上の熱気に包まれていました。

休憩の後、水貝潮華先生の司会により、懇親会となりました。早速、席上揮毫、路川千曄先生の手紙、調和体の硬筆揮毫に始まり、向山朴花先生は自ら染められた紙に、牧水のうたを、石田愁華先生は正方形の紙に金文四文字を、髙橋香樹主幹は草体十四文字と淡墨で二文字を、瞬きするのも惜しまれる静けさの中での緊張感に息をのみました。祝辞、乾杯、招待者紹介と進み、研究部・推薦合格者の授賞式へと続きました。例年になく出席者も多く、盛会で充実した一日を過ごすことができました。

鈴木静村会長

展示室

路川先生

髙橋主幹

受賞者の皆様

向山先生

石田先生

条幅臨書部課題　（十月二十二日締切）

興福寺断碑

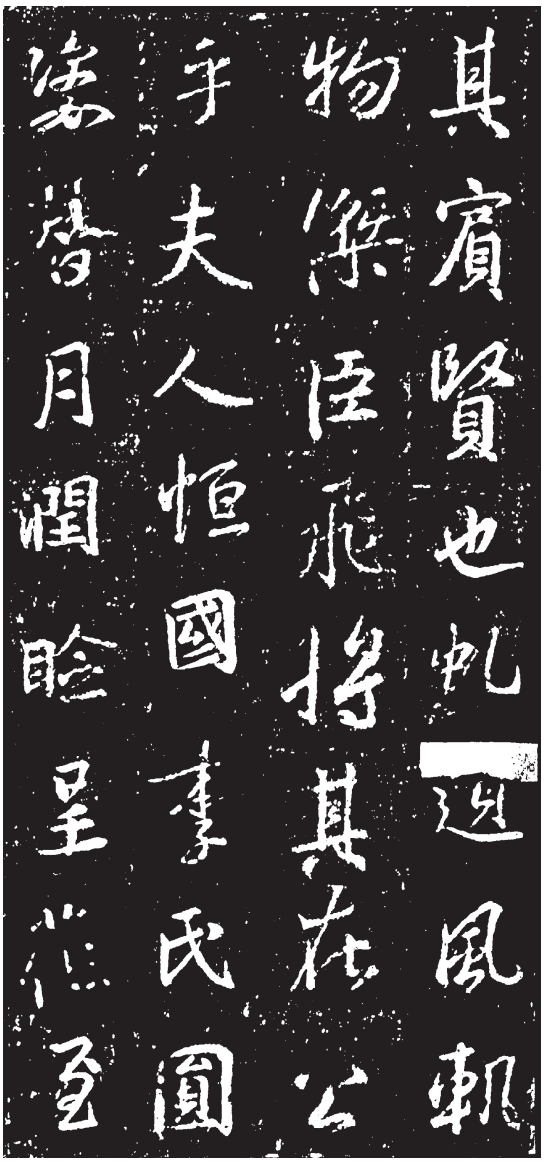
欠損部は補筆の事

傑臣飛將。其在公乎。夫人恒國李氏。

傑臣・飛將は、其れ公に在るか。夫人は恒国李氏、

条幅臨書部は半紙臨書部と連動しています。半紙に取り組んだ方は是非条幅にもチャレンジしてください。また条幅だけ出品も大歓迎です。

▽字詰め自由。
▽落款は「○○臨」と調和を工夫し書き入れる。
▽出品料五四〇円。



◆注 意　・条幅臨書部の出品はバーコード券右空欄に条臨と記入する。

条幅部漢字課題参考　（十月二十二日締切）

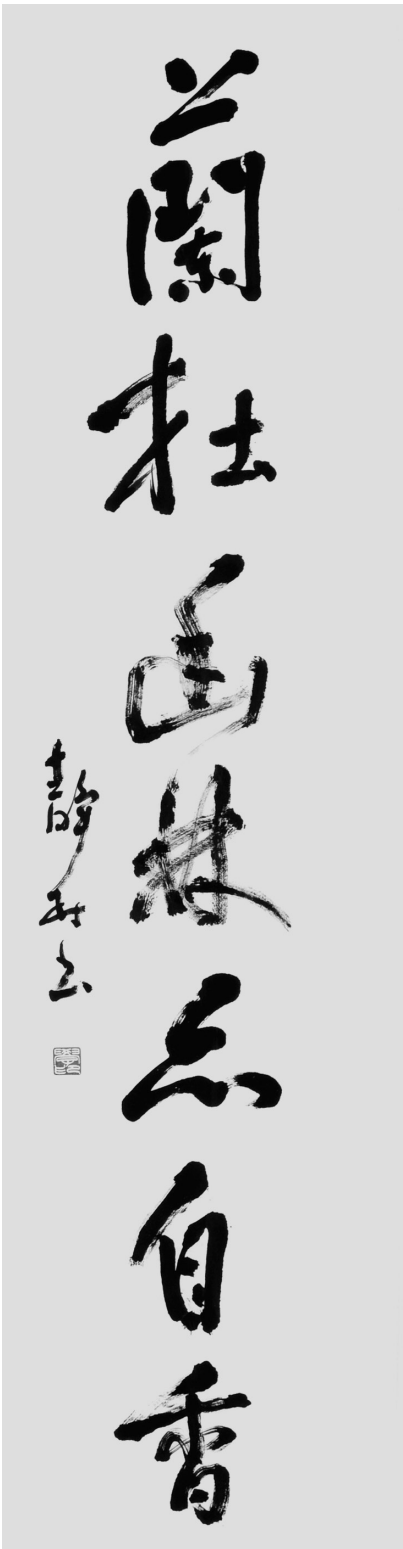
A

高橋香樹主幹書

蘭在幽林亦自香（劉禹錫）
蘭は幽林に在りて亦た自ら香し。

草書で書いていたが仲々思うようにならず、気分転換に一枚だけ破体書（いろんな書体で違和感ないように書く）で書いてみた。「自」は草書、「香」は行書、他は楷書だが、隷書を加味したものも。脇が大きくあくので落款は、私の堂号「湖畔艸堂主人書」と長めに書いてみた。○○書で可。

B



鈴木静村書

特号大筆を使用。手足を伸ばし外向的に強く打ち出してほしい。私の例作には力感の張りが感ぜられない。みなさんは、より若々しく〝自分〟を表出されたい。**蘭**　門構えをスッキリと。**在**　〝扌〟と〝土〟との全体を意識するとよい。**幽林**　渇筆部クネクネと弱くならぬように。**香**　特に〝日〟で全体を締める部分として注目したい。

訳…蘭の花は奥深い林にあっても、おのずと香り高い。

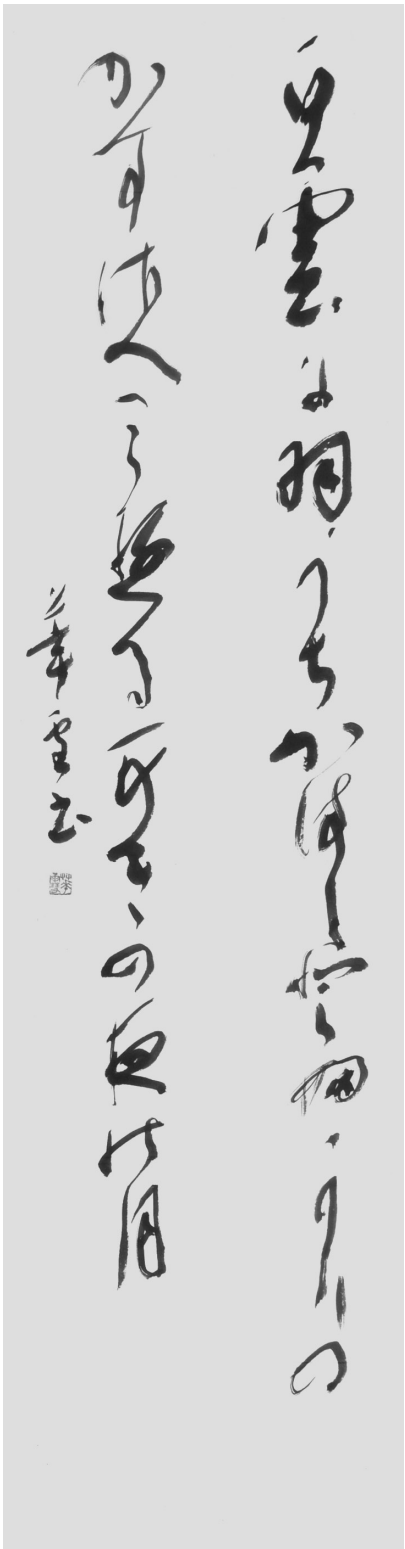
予告（十一月二十二日締切）　**遊人五陵去　寶劍直千金　分手脱相贈　平生一片心**（孟浩然）

◆**注意**
- 条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条漢を○で囲み（1）と記入する。）
- 二枚目からの出品（バーコード券の条漢を○で囲み（　）に何枚目か数字を記入する。出品料540円）

条幅部かな課題参考　（十月二十二日締切）

A

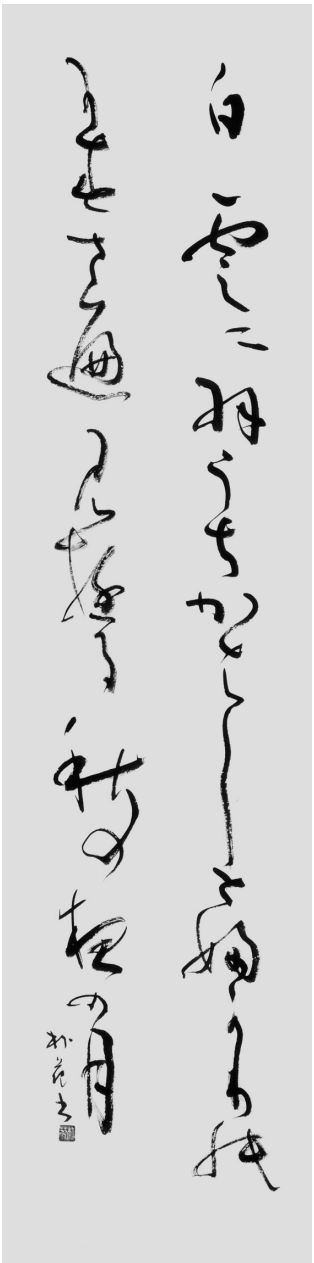
平岡華雪先生書



白雲に羽うちかはしとぶ雁のかずさへ見ゆる秋のよの月（古今和歌集　よみ人しらず）
白雲尓羽うちかはし登婦可りのかす佐へ三遊るあきの夜能月

B

向山朴花先生書



白雲二羽うちか者しと婦可利能可春さ遍見遊る秋の夜の月

古今和歌集は、六歌仙、貫之等撰者の歌、約千百首を収め、その歌風は、調和的で、優美、繊麗である。
「白雲に」の歌は、読み人知らず、題知らず。
「月に雁」と言えばこの歌、として多く知られている。

歌意…白雲に翼を交えて飛ぶ雁。その数が数えられる程くっきりと見える秋の夜の月の光よ。

学び方

条幅二行書きです。初句、漢字二字は、意連に注意して放ち書き、その後の七・五句は、一字、二字、三字、四字と連綿及び意連を重ねて、叙景の効果を表出します。二行目、次第に渇筆になり、筆の速度を弛めて広がりを見せます。終句に到り、墨を入れ、歌意の印象を深め引き締めます。いづれも、なるべく言葉の意味がわかり易い文字表現を心がけます。
右の平岡華雪先生の書から、淡々とした表出の、内に込められた繊細なリズムと揺れの妙技を学びとりたいと思います。作品を書き出す前に、歌意とその言葉の意味を理解し、自分なりの作品構成をします。
手本を参考にする時、一文字ずつ形を追うのではなく、全体の流れを掴み、そのリズムと振幅の中から、独自の線質を磨いていくことが大事だと思います。

予告（十一月二十二日締切）　日をへつゝおとこそまされ和泉なる信太の森の千枝の秋風（新古今和歌集　藤原経衡）

◆注意
- 条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条かを○で囲み（1）と記入する。）
- 二枚目からの出品（バーコード券の条かを○で囲み（　）に何枚目か数字を記入する。出品料540円）

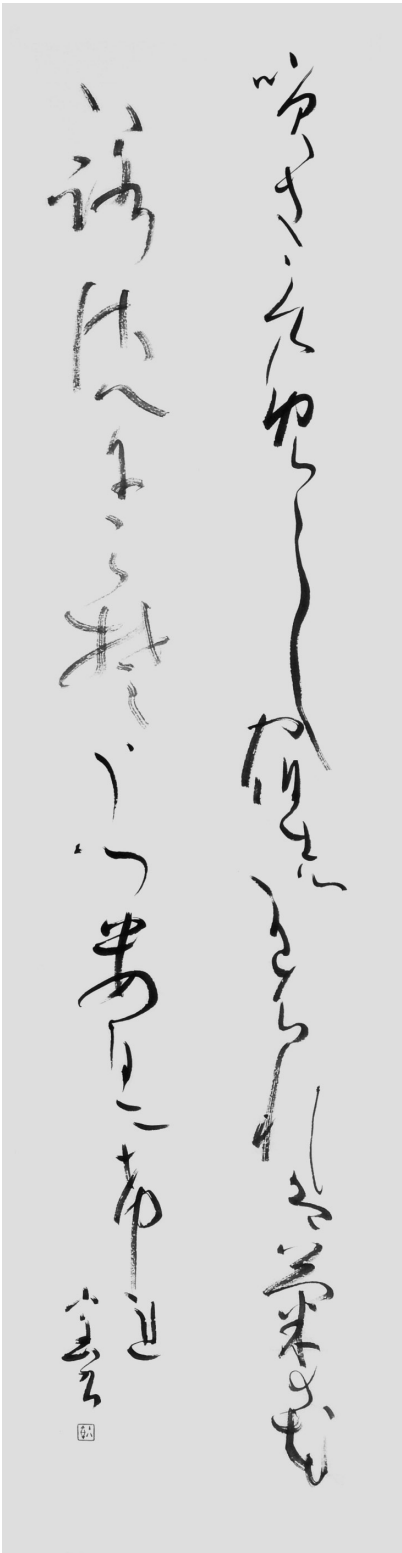
条　幅　部　随　意　参　考

北沢博舟先生書

秋山破夢風生樹　夜水明樓月在湖（文徴明）
秋山夢を破り風樹に生じ、夜水楼に明かに月湖に在り。

訳…秋の山林に住む夢を破って風が樹に起こり、夜の水が楼に映じて明るく月が湖をてらす。

髙山小玉先生書



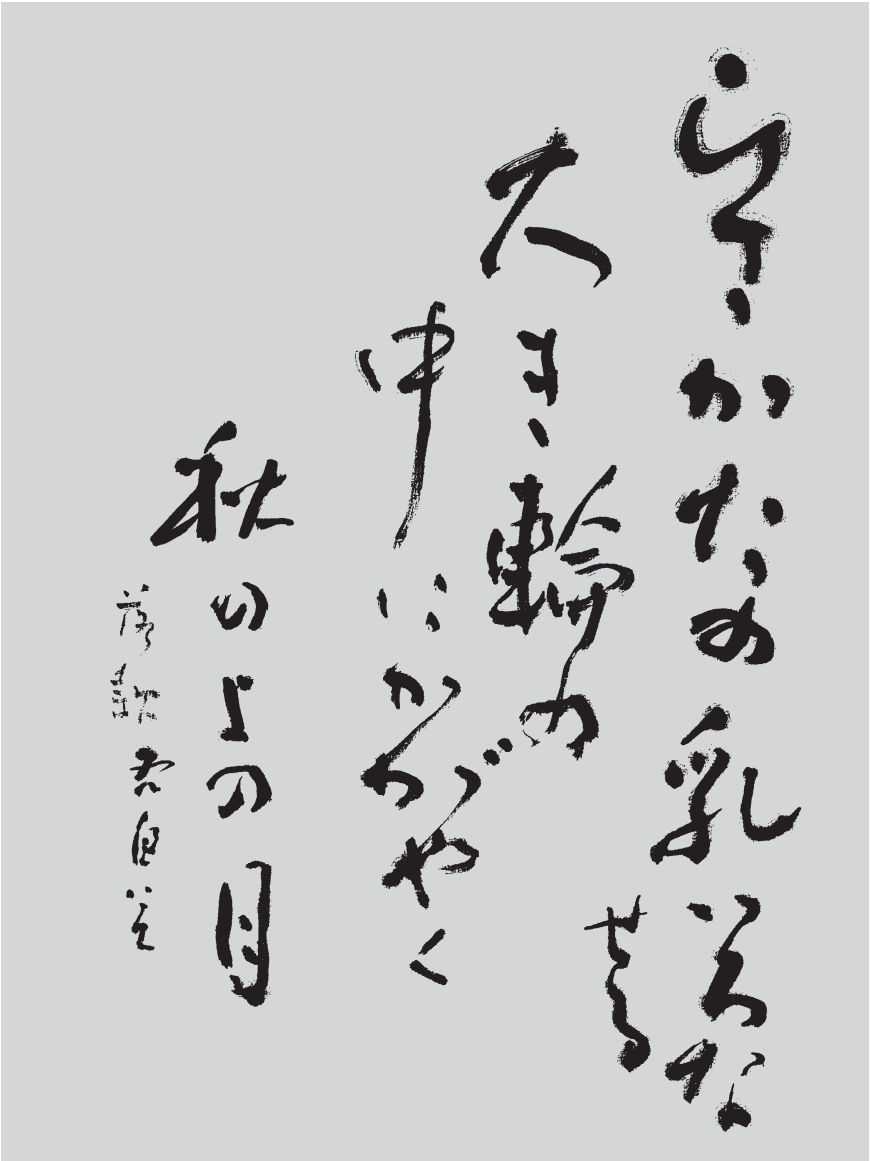
咲きそめし宿しかはればきくの花色さへにこそうつろひにけれ（古今和歌集　紀貫之）
咲支そ免し宿志可者れ盤菊の花い路佐へ尓こ楚う川婁日二希連

◆注 意　・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を〇で囲み（1）と記入する。）
・二枚目からの出品（バーコード券の条随を〇で囲み（　）に何枚目か数字を記入する。出品料540円）

漢字かな交じりの書課題参考　（十月二十二日締切）

鈴木静村書

○一行目、行末「せる」を寄せているが、一行に詰め入れても可。
○墨継ぎは、二・三行が渇筆調を予測、「秋」で継ぐ。
○「ひさかたの」歌意のうえで「天、空、月」にかかる枕詞。
○**落款**　「落款各自にて」これまでの課題例を参考に各自で工夫表出のこと。「印」で効果的に締めて下さい。



ひさかたの
乳いろなせる
大き輪の
中にかがやく
秋のよの月
（斎藤茂吉）

◆**注意**…はじめて出品される方は私製の紙（3×4㎝位）に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。出品料540円。
①バーコード券右空欄に漢かと記入　②支部名または都道府県名　③氏名または雅号　④新

漢　字　部　課　題　参　考　（十月二十二日締切）

平岡華雪先生書

任重く而（しかし）て道遠し。（論語）

訳…責任は重く、しかも道程は遠い。道義をになう者の覚悟をいう。

〈之繞（しんにょう）について〉

「道、遠」の主画（しゅかく）。この表出は一字の出来、不出来に影響が大きい。

要は、運筆のリズム。点からうねり、うねりから・印へ一気に、この反動が大切。

◆**注意**…はじめて出品される方は私製の紙（３×４㎝位）に次の４項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は430円。

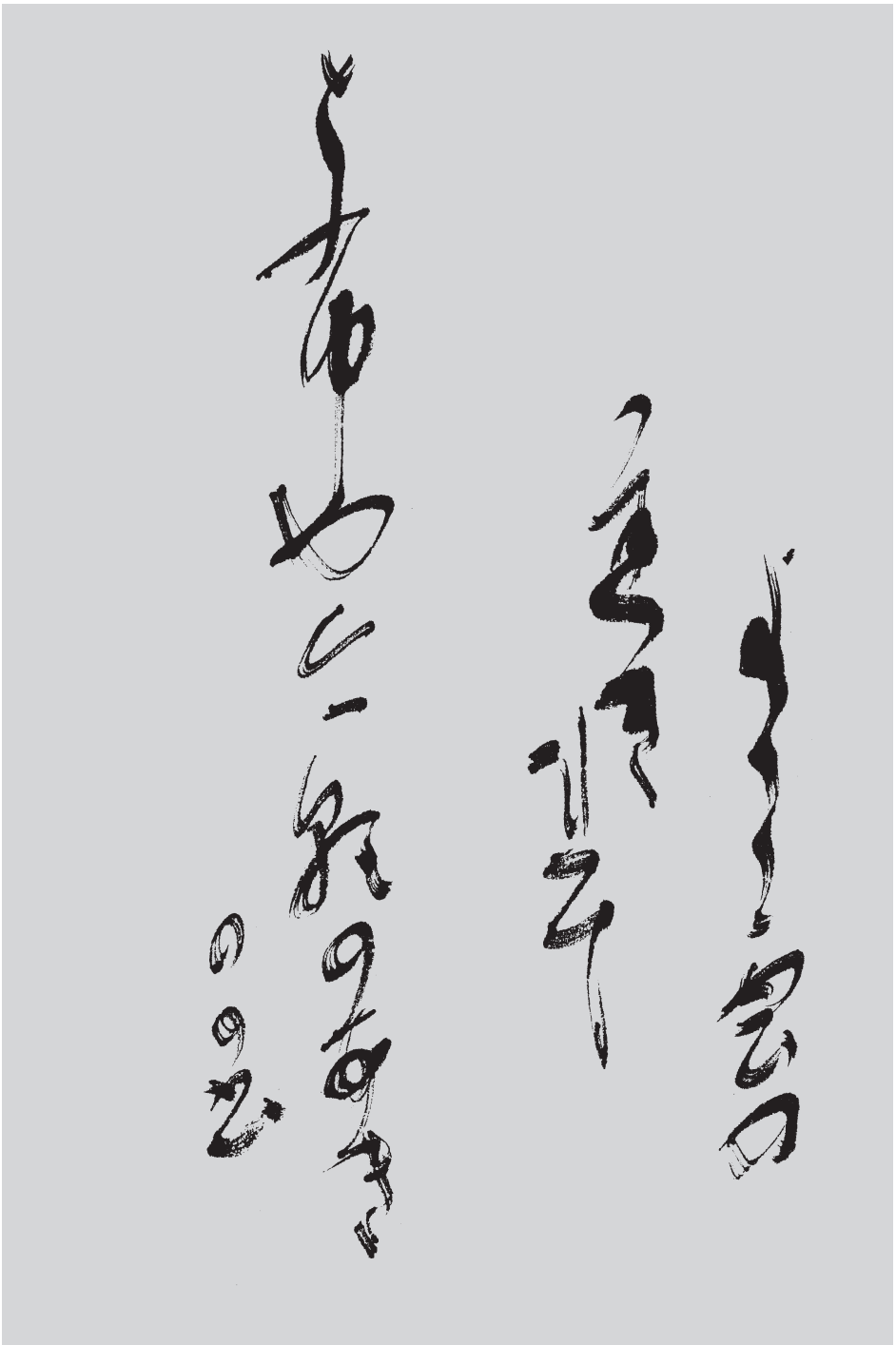
①漢字部　②支部名または都道府県名　③氏名または雅号　④新会員は無料。

かな部課題参考　（十月二十二日締切）

平岡華雪先生書

横雲のちぎれて飛ぶや今朝の秋（北枝）

よこ雲の遅き連てと布や今朝のあき



〈歯切れよく、流れよく〉

ひと筆書きとも見られる筆の流れです。含墨たっぷりで抑揚用筆を充分に駆使しています。墨継ぎの場合は、下の句の〝今〟が適切。思い切りよく取り組んで下さい。

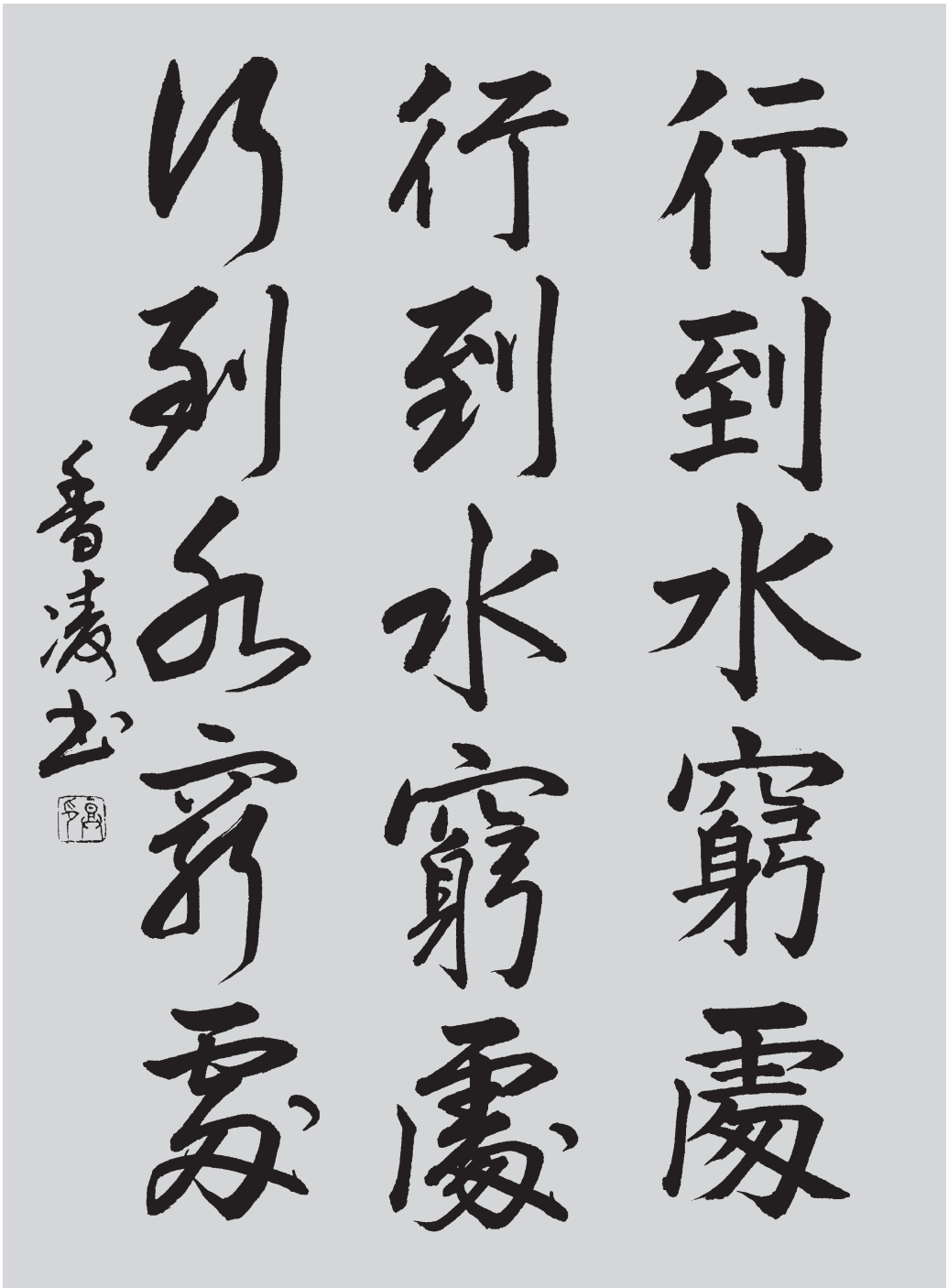
「今」

◆**注意**…はじめて出品される方は私製の紙（３×４㎝位）に次の４項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は430円。

①かな部　②支部名または都道府県名　③氏名または雅号　④新会員は無料。

高橋香凌先生書

行到水窮處（王維）
行き(ゆ)て水の窮(きわ)まる処(ところ)に到(いた)り。



訳…川に沿って遡ってゆくといつしか水源に達してしまった。

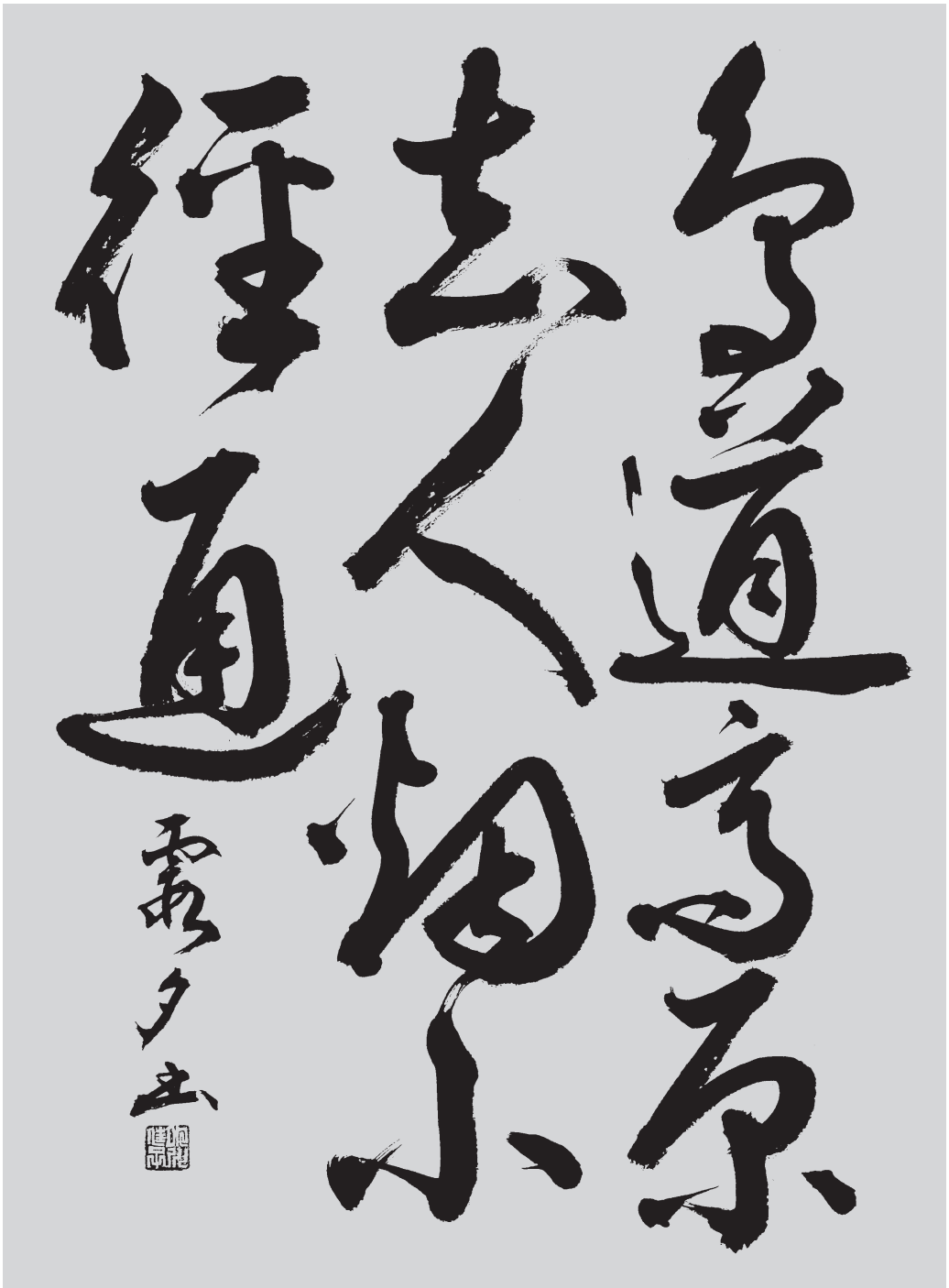
1．随意部参考として出品してください。　2．会員外の出品料は430円。

随　意　部　参　考

外川霞夕先生書

鳥道高原去　人煙小徑通（張祜）

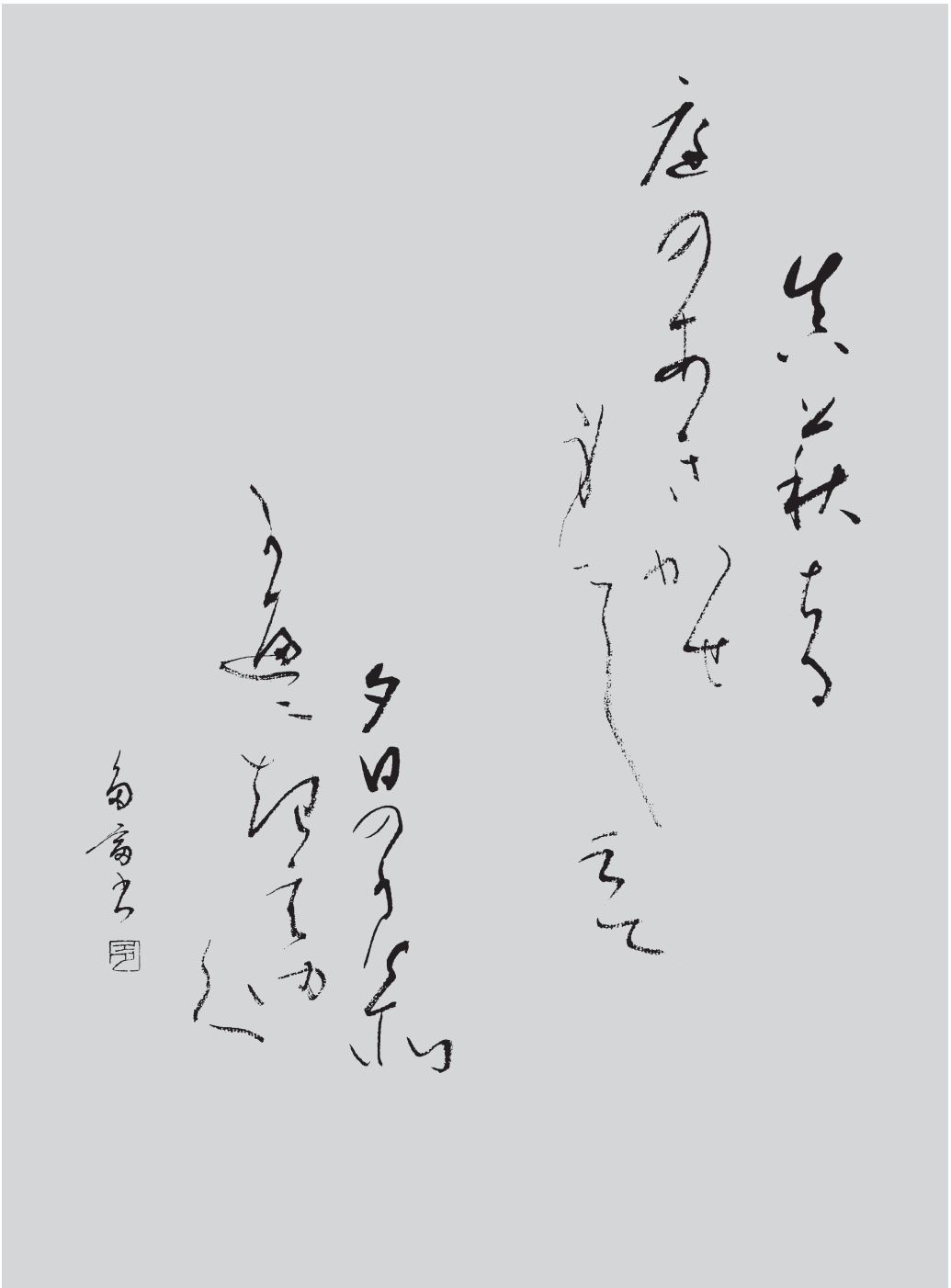
鳥道高原に去り、人煙小徑に通ず。



訳…鳥しか飛べない険しい山道は遙か遠い高原にあり、そこには人家から立ちのぼる煙が見え小径が通じている。

1．随意部参考として出品してください。　2．会員外の出品料は430円

随　意　部　参　考



森　多富先生書

真萩散る庭の秋風身にしみて夕日のかげぞ壁に消えゆく（風雅集　永福門院）

真萩ちる庭のあきかせ身二し三て夕日の可介所可遍二起衣ゆ久

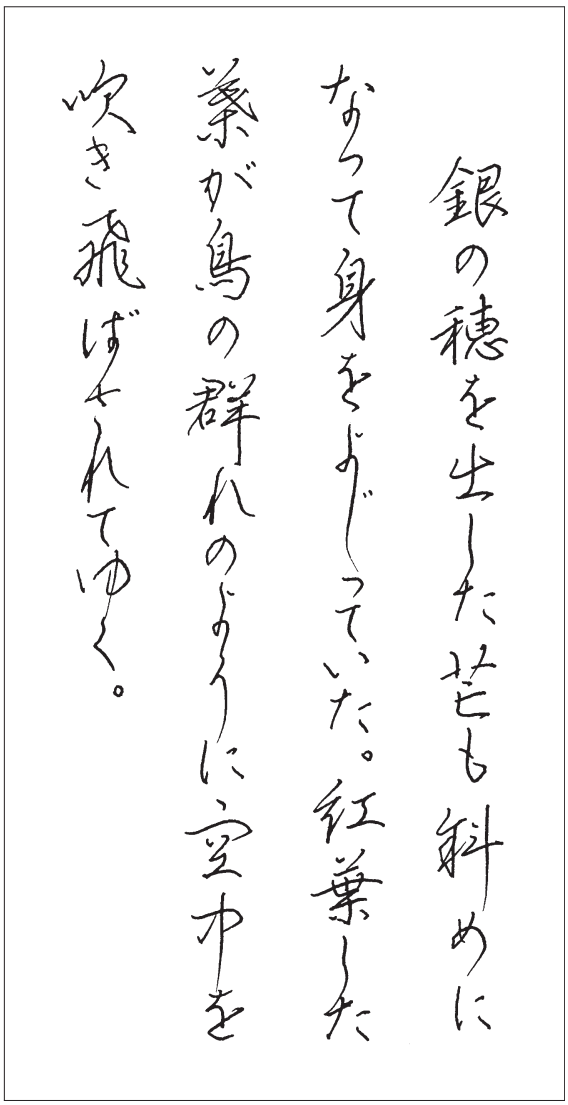
1．随意部参考として出品してください。　2．会員外の出品料は430円

硬筆部課題参考　（十月二十二日締切）

路川千曄先生書

課題1（初段以上）

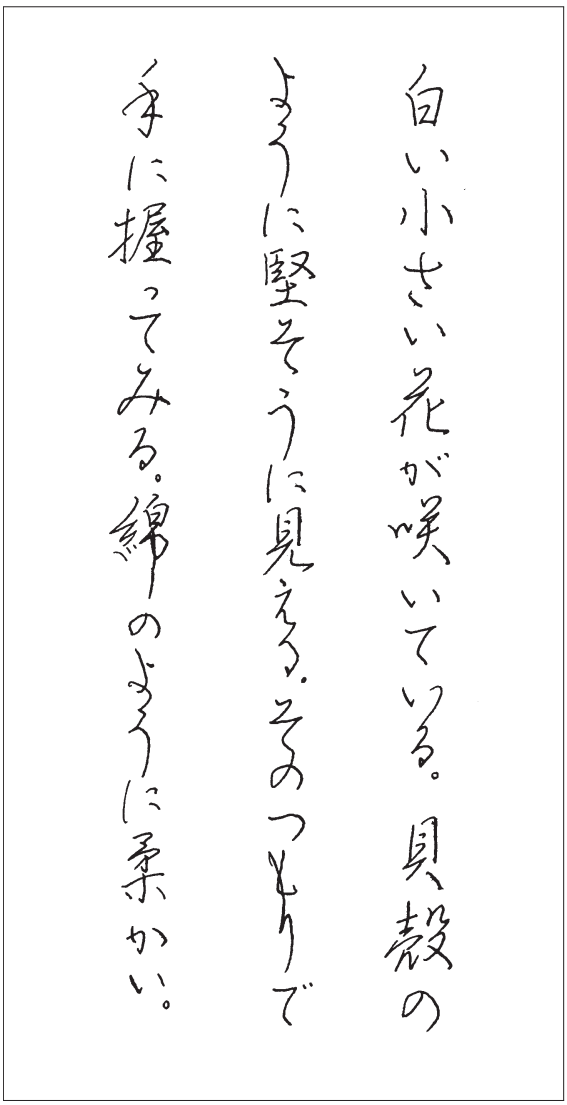
銀の穂を出した芒も斜めになって
身をよじっていた。紅葉した葉が鳥
の群れのように空中を吹き飛ばされ
てゆく。



湯澤春翠先生書

課題2（初段格以下）

白い小さい花が咲いている。貝殻の
ように堅そうに見える。そのつもり
で手に握ってみる。綿のように柔か
い。



課題1（初段以上）

銀の穂を出した芒も斜めになって身をよじっていた。紅葉した葉が鳥の群れのように空中を吹き飛ばされてゆく。

「西行花伝」辻　邦生

課題2（初段格以下）

白い小さい花が咲いている。貝殻のように堅そうに見える。そのつもりで手に握ってみる。綿のように柔かい。

「伊豆の旅」　川端康成

◆注意

(1) 自分の段級に合った課題を選択。
(2) ペンまたはボールペン（黒色）を使用のこと。青インクは不可。
(3) 段級欄は本人が記入（色は黒）
(4) はじめて出品される方は私製の紙（3×4㎝位に）次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
(5) 会員は無料・会員外は四三〇円